# Platz

1人の持つ2つの生活の「場」。その取材を通じドイツ的ライフスタイルの魅力を探ります

A

Ann-Christin in der Schule

**A** ギムナジウムでヘブライ語の授業を受けるアンケ（アンの愛称）。受講者が少ないため5つの学校の合同授業だ。
**B C** ベルツバッハ先生。ギムナジウムには彼のように博士号を持つ教師も多い。
**D** 休憩時間。ドイツでは喫煙は16歳から。試験の結果がよくなかったアンケは苦笑い。

B

C

D

撮影／津田孝二

Ingelore（インゲロール）と名づけられたネズミはいつもアンケと一緒。インゲロールが妊娠中なので「ネズミの子いらない？」と常に周囲に尋ねて回っている。今日のユーゲントトレフ（若者の集いの場）は、近隣のバンドが生演奏するディスコ。アンケはスタッフとして飲み物を販売しつつ、ボーイフレンドとのおしゃべりに余念がない。彼は考古学専攻の大学生だ。

Ann-Christin im Jugendtreff

➡関連記事は114ページ

第11回

# Platz

## Ann-Christin
### in der Schule / im Jugendtreff

アン・クリスティーン（アンケ＝Annke＝アンちゃん。„-ke“ は縮小語尾）は 18 歳，Gymnasium（ギムナジウム：小学校高学年と中学・高校がひとつになった進学校）の 11 年生だ。ドイツでは小学校から通して学年を数えるので，これは高校 2 年にあたる。ギムナジウムに入った年に（日本の小学校 5 年相当），本格的に第一外国語が始まる。学校によってまちまちだが，英語，仏語，ラテン語などが主流で週 5 — 7 時間を占める。2 年後に（中 1 相当）第二外国語，4 年後（中 3 相当）に第三外国語，あるいは理系のギムナジウムでは物理，化学，生物，情報学などの追加授業が選択必修となる。

アンケは第三外国語としてヘブライ語を選んだ。履修生徒が少ないので，5 つのギムナジウムがまとまって週 1 回 4 時間の授業を行う体制ができている。

ベルツバッハ先生が教える 17 人のクラスに，今日は 14 人が出席している。始めた動機はいろいろだ。アンドレアスは牧師になりたいので神学部へ行くために。進学にはヘブライ語，ラテン語，ギリシャ語の履修が必要なのだ。レナとヤニーナとサムエルはユダヤ人の家系だから。そしてアンケはまったく違う言葉を学びたかったから。今日はサムエルの誕生日でもあるし，ユダヤ人解放の祝日が近いこともあるので，授業半ばの休憩時間に皆がケーキなどでお祝いをして，ヘブライ語の歌を聴く。

忙しい日常を送るアンケ，プロテスタントの教会付属の Jugendtreff（ユーゲントトレフ：Jugend＝若者と Treff＝出会いが一緒になった名詞で，若者が集まる場を指す）の運営スタッフでもある。ここには 12 歳から 27 歳の若者が集う。彼らの需要に応じ，月 500 ユーロ（約 7 万円）の予算でロックコンサートを催したり映画を上演したり。イベントのない日も学校帰りに必ず寄って，飲み物を調達したり，やって来る若者たちにドリンクを売ったり。市の青少年保護委員会に出席することもある。ソフトドリンクとビールは 1 ユーロ（約 140 円），水はその半分。16 歳からビールを飲めるドイツでは，ビールの売れ行きも好調だ。

今夜はユーゲントトレフで，近隣のバンドいくつかが生演奏するディスコがある。スタッフが入り口で入場券を売ったり，凶器や麻薬が持ち込まれないように荷物チェックをしたりしている。「これが終わったら来週のテストの準備をするために，友達と約束しているからあまり飲めないの。」とアンケ。忙しくドリンクを販売したり，その合い間にボーイフレンドとおしゃべりに興じたり。

文／小野フェラー雅美（通訳・著述家）